

## テーマ 「ピア・サポートを考える」

日時 : 2022年12月11日 (日) 10:00 ~ 12:15

場所 : 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター (オンライン配信あり)

参加費 : 無料

参加希望者は事前申込み (現地参加、オンライン参加) が必要です。

### 「ピア・サポート」とは何なのでしょう？

“ピア”とは英語で“仲間”を意味しますが、ピア・サポートとは「同じような困難や課題を持つ人同士が互いに支えあう活動」を意味します。難病の患者会や、依存症患者の自助グループなどはピア・サポートの代表的なものですが、ネットやSNSで簡単に情報が手に入る現在でもその形態は必要なのでしょう？4名のゲストと共に「ピア・サポート」を考えます。

伊藤 智樹

富山大学 学術研究部  
人文科学系 教授



宮井 典子

SLE Activist



うえやま みか

一般社団法人  
てくてくぴあねっと代表



新井 美子

難病カフェおむすび代表



お申し込みは  
こちらのQRコードから



リンク先の  
「ピア・サポートを考える」参加申込みページで、  
現地参加、または、オンライン参加を選択し、  
お申込み下さい。

左記メールアドレスへメールでの申し込みも可能です。

[info@nposerla.com](mailto:info@nposerla.com)

※ ウェビナーの詳細は裏面やSERLAホームページをご参照ください。



前半：講演

10:00 ~ 11:20

## 伊藤 智樹 「ピア・サポートとナラティブ・アプローチ (narrative approach)」

メッセージ：ピア・サポートを「物語 (narrative、story)」をキーワードとして解説します。演者の考える「ナラティブ・アプローチ」は、「こうすれば支援が上手くいく」という方法ではなく、患者の苦しみに接近するひとつの方法であり、人間の弱さと力強さをともに浮かび上げさせながら、希望へとつなぎとめる一助を果たすのではないかと考えています。

## 宮井 典子 「みんなで考えるピア・サポートで繋がる社会」

メッセージ：仲間同士の支え合いは、孤独になりやすい患者にとって心強い存在であり、ピア・サポートがなす社会的役割の大きさを感じています。また横の繋がりを深めることで前向きになれることから患者のQOLの維持に役立つ重要な存在だと認識しています。当日は当事者の立場と膠原病患者の家族としての経験からピア・サポートで繋がる社会について考えていきたいと思っています。

## うえやま みか 「闘病子育てにおけるピア・サポートの持つちから」

メッセージ：てくてくびあねっとは、病気を抱えながら子育てをするお母さんやお父さんをサポートする団体として、ピア・サポートを取り入れて活動しています。これからのより良いピア・サポート活動のために、参加者の皆さま、講師の皆さまとたくさんお話をさせていただきたいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 新井 美子 「病いの違いを越えた支え合い～難病カフェおむすびの活動を通して～」

メッセージ：私は2つの難病とともに生きる中で「難病を持つ人が安心して過ごせる居場所を作りたい」と思い、「難病カフェおむすび」の活動を始めました。おむすびでは様々な難病をお持ちの方が集い、日々感じる思いや悩み等をお話しています。難病カフェおむすびの活動について、「病いの違いを越えた支え合い」についてお話したいと思っています。

後半：パネルディスカッション

11:30 ~ 12:15

## 「これからのピア・サポートについて考える」

会場の参加者だけでなく、オンラインからもチャットによりディスカッションに参加することができます。ぜひご意見をお聞かせください。

## SERLA について

SERLA (Support, Education, Research of immuno-rheumatology with Linked Alliance) は、膠原病や関連疾患の支援・教育・研究を推進するために2020年に特定非営利活動法人として発足しました。

人と人とのつながりを大切にして活動を展開していく。  
そんな団体として世の中に貢献していきたいと考えています。

